医学図書館昔話

The Reminiscences of My Medical Library Days

順天堂大学理事長

有 山 登*

本日、日本医学図書館協会創立50周年記念式典にご招待を受け、本協会の前身の医科大学附属図書館協議会時代の事共をしのんで感慨禁じ得ぬものがあります。

この式典は、その内容が主として戦後30年間の本協会に関するものであることは当然であります。戦前20年間の歴史を顧みて発展の跡をたどることに意義があると思ひまして、額田協会長の寛大なお許しを得て飛び入りさせて頂いた次第であります。戦前の本協会の成長過程については、既に協会長が、医学図書館雑誌創立50周年記念号に詳しく書いておられるので、私は、皆様のご存知ない、わが国医学図書館初期の風景の昔話を申し上げ度いと存じます。皆さんの中には隔世の感を持たれる方もあると思います。

昭和2年、新潟、千葉、金沢、岡山及び長崎の5官立医科大学が圖書の相互貸借の円滑化を計ることを主目的として、官立医科大学附属図書館協議会というものを作り、その創立総会が同年新潟で開かれました。これが今日の協会の始まりであり、またわが国学校図書館界最初の試みであったでしょう。当時の新潟の図書館は割合に手が揃っていたので、その後も協議会のお世話を大分致しました。昭和4年には官立という字を取り去り、医科大学附属図書館協議会と改称して、広く国公立大学の加入を勧誘した結果、同年東北大学、京都府立医科大学及び大阪医科大学（後の大阪帝大）が加わり、昭和9年には、熊本、名古屋も入会して10校になりました。

昭和6年に新潟で作られた医科大学共同学術雑誌目録は、この種の刊行物としては最初のものです。

私は協議会設立の翌年新潟の教授になったので創立時のことは存じませんが、その後のことは、一通り見ております。そして昭和9年に図書館長になりましたが、当時の館長は2年が任期であったのに、どういふわけか私

は3期6年やらされました。その間、加盟校の数を増そうと懸命に努力しましたが、どうもはかばかしく参らず6年間に東大、慶応及び京城の3校が加わり、やっと計13校になりました。各大学の反応が鈍かったのは、私の推測では、(1)読みたい本は勝手に購入すればよいのだから何も協議会如きに入る必要などないという昔風の考えが教授側に強かったことと、(2)図書館側では加盟したいが、図書館業務が整備されていないので入れないという事情と2つの理由があったようです。ある古い国立の大学は何遍勧誘状を出しても、梨のつぶてでしたので、遂に堪まりかねて、その図書館へ行って司書に会ってみると、彼が言うには、実は蔵書的大部分は各教室の教授が持っていてしまって図書館員の手が届かず、返事をし度くても出来ない状態であるということでした。その後昭和14年に硝煙の中から満州医科大学が最後に参加して戦前の加盟大学は計14校となりました。

当時の図書館が如何にのんきであったかという他の例を申し上げると、新潟では1種類の外国雑誌を3重、4重は愚か7重、8重にも購入していました。これは多くの臨床教室が基礎医学系の雑誌を盛んに買っていたからです。折しも昭和10年、外国雑誌が著しく値上げされて大学間の問題になったので、これを好機に、私は原則として全学の雑誌は1種につき1部限りとした。館長の権限を、はるかに越えた乱暴な話でしたが、臨床科における基礎医学系外国雑誌の利用率が極めて低かったので、思い切ってやってみたのです。果してごうごうたる反対がありましたが、1年経て研究の具合を聞いてみたら、「まあ大した支障はなかった」ということで、雑誌購入制限が定着しました。そのため図書費は従来約半分に。他大学でもこれにならったところがあつたようです。当時大学の図書費は平均して4万円位であつたでしょう。現在は平均4千万円近くになっている由で、定めし図書購入費の節約、合理化は厳しく行われていること

* Noboru ARIYAMA : Director, Juntendo University

と思います。

話を終戦直後に移します。戦後、米国の指令で厳重な大学設置基準が出来、大学は蔵書何万冊以上備えなければならぬということになりました。古い大学なら、どこでもそれ以上の本が自然にたまっているから問題はないが、新設大学では困って、教授達の私蔵書や古本屋から借りたりして間に合わせた例があったので審査委員は大いに憤慨した。誠にもっともな次第であるが、私は次のような批判をして委員達のご機嫌を損じたことがありました。それは、書物の冊数は多いほどよいに決まっているが、版の古い単行本などは余り役に立たない。書物多きをもって尊しとせず、戦後は新刊書の購入金額と冊数、図書に対する大学の熱意などを基準として重んずべきである。委員諸公は大学教授であるが、論語読みの論語知らずで、冊数にばかりとらわれるから新設大学の方

では苦しまぎれに、そのような善からぬことをするのである。委員として反省を要するという趣旨でした。

昔の図書館は閑職中の閑職とされていましたが、今や加盟館数85に及び、医学情報センターとして近代的な活動部局になって、私共の昔の夢が実現されつつあることは何とも喜ばしい次第であります。それにつけても本日の盛儀を見せたかった人がおります。戦前新潟の主任司書をしていた渡辺正亥君です。彼は当時既に新しいビジョンを抱いて今日あるを期待していた極めて有能な司書で、今なお健在な数名の戦前医学図書館功労者の一人であります。この晴れの式に彼の姿を探したが見当りませんでした。そしてそこに図書館業務の進歩の激しさを感しました。

以上

（昭和52年12月1日受付）

◇ 相互貸借マニュアル

相互貸借業務必須のマニュアル。

日本医学図書館協会における申込の手続き（国内、国外）、書誌事項の確認、テレックスによる相互利用等を具体的に説明。

サンプル 20枚

付録：各種資料案内

ルーズ・リーフ

1976発行 1977改正

¥ 2,200

申込、問合せ先

113 東京都文京区弥生 2-4-16

学会センタービル内

日本医学図書館協会

TEL：03-815-1942 振替：東京6-49585

取引銀行：三井銀行上野広小路支店 普通預金（口座番号）158-376